

『チョコチップメロンパン』 作：ポチ子

ベットに横たわる彼女。

彼は部屋の掃除をしている。

彼女「あーあー、なーんで生まれてきちゃったんだろ。」

彼は「ふー、どうしたの？」

彼女「特に何の役に立つわけでもないし、残りの人生で役に立てる

気もしない。あーせめて今からでもチョコチップメロンパン
になれたらな。」

彼は「なんでチョコチップメロンパン。」

彼女「好きだから。」

彼は「ふふ、確かにいつも食べてるもんね。」

彼女「存在するだけで幸せにできる、そんなものに私はなりたい。」

彼は「あいかかわらずネガティブだねえ。」

彼女「少しくらい意味がある人に生まれればなあ。」

彼は「うーん、そうだねえ。意味か。意味って難しいなあ。」

彼女「こうやって休日にゴロゴロして、平日は休日の為だけに働く。

果たして私の人生とは一体、なんなんでしょう。」

彼は「俺はいいと思うけどな。それで。」

彼女「うーん、いいのかなあ。」

彼氏「俺は、あなたがいるだけでもうれしいよ。」

彼女「そんなもん？」

彼氏「そんなもんだよ。」

彼女「ふーん、そうかー。」

彼氏「ふふ、今日は何食べる？」

彼女「・・・チーズタッカルビ。」

彼氏「それは想定してなかったな。んー・・・買い物いこっか。」

彼女「ついでに、板チョコアイスも買っていい？」

彼氏「いいよ。」

彼女「あとチョコチップメロンパン。」

彼氏「それは夕ご飯が食べられなくなるのでダメです。」

彼女「えー。」

彼氏「ほらほら、買い物物の準備して。すぐ行くよ。」

彼女「はい。」